



にしじ

謹賀新年 新年のご挨拶2015 . . . P2~7

■ 新年のご挨拶	古味勉企業長	P2
	武田明雄病院長・深田順一副院長	P3
	吉川清志副院長・山下元可副院長	P4
	森本雅徳副院長・島田安博副院長	P5
	森田荘二郎がんセンター長・岡部学中央手術センター長 山本克人循環器病センター長	P6
	西岡豊地域医療センター長・喜多村泰輔救命救急センター長 林和俊総合周産期母子医療センター長	P7

1

JANUARY. 2015 Vol.111



明けましておめでとうございます。今年も「高知医療センター」をどうぞよろしくお願いいたします。

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —

新年のご挨拶

— 2015 —



企業長 古味 勉

就任のご挨拶 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。
昨年12月3日に高知医療センターの企業長に就任いたしました古味です。前職は高知市の職員として、主に情報システムや財政、総務などの業務を担当してきました。病院事業については初めての仕事であり、また、県内でも有数の病院である高知医療センターを開設する高知県・高知市病院企業団の管理者という重責に、まさに身の引き締まる思いを実感しています。まだまだ勉強することばかりですが、全力で取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

さて、高知医療センターは「医療の主人公は患者さん」との理念を掲げ、高知県・高知市病院企業団立の病院として平成17年3月に開院し、今年で10周年を迎えます。この間、急性期中核医療機関として、診療については高い評価をいただくとともにドクターヘリの導入や「こころのサポートセンター」をオープンさせるなど、機能の充実を図ってきました。また、経営面ではPFI契約を平成22年3月に解消し、その後、3期連続の単年度黒字を確保するなど、関係機関並びに地域の医療機関の皆様のご協力と歴代の企業長、院長をはじめとする病院スタッフの努力により、基本目標である「医療の質の向上」、「患者さんサービスの向上」、「病院経営の効率化」への取組が、着実に進んできたものと考えております。

今後につきましても、開院10周年の節目を迎えるにあたり、これまで積み重ねてきた成果や信頼を大切に、さらに向上させていくとともに自治体病院としての使命を果たすこと、地域医療連携を基本とした良質で高度な医療を提供することを念頭に、高知医療センター職員一同、努力を重ねてまいりますので、どうかよろしくお願いいたします。





病院長 武田 明雄

新年明けましておめでとうございます。

昨年、厚労省が2025年に向けて、各医療機関の病床機能再編成を計画していると申しあげまし

たが、いよいよ報告制度が開始されました。病床機能を「高度急性期」、「急性期」、「回復期」、「慢性期」に分けるもので、当センターとしては、当然「高度急性期」を目指しています。「高度急性期」の定義としては、「急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能」とされています。そのため昨年は、7月にハイブリッド手術室を整備、11月にTAVI(経カテーテル的大動脈弁置換術)実施施設の認定、また血液内科では県内2施設目として「非血縁者間骨髄移植・採取施設」の認定等高度な医療を提供できるよう新たな取り組みを行っています。さらに来年度は、MRI増設、循環器病センターとしてCCUの整備を計画して

おり、既存のICU、HCU、SCU、NICU、GCUと共に急性期病床の充実を図り、高度急性期医療への対応を整備していく予定です。

昨年エボラ出血熱が話題となりましたが、当センターは感染症病床を8床(エボラ出血熱等のI類用2床、鳥インフルエンザ・SARS等のII類用6床)有しています。このような重症感染症にも対応できるよう日頃より関係機関との協議、訓練を実施しており、基幹災害拠点病院としての機能と共に有事の際に的確に対応できるよう体制を整備していきます。

県内の医療機関よりの要望として一番強いのは、やはり精神科の再建についてです。救急を含む「身体合併症を有する成人患者」への対応では非常にご迷惑をおかけしていますが、なんとか今年中には再開できるように最大限努力していきます。

今後の医療政策上、我々のような急性期病院としても地域包括ケア病床、在宅医療等地域の医療機関との連携がさらに重要となってきます。今後ともご理解、ご支援をお願いいたします。



副院長 深田 順一

皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな新年をお迎えのことと、こころより喜び

申し上げます。日頃は高知医療センターとの医療連携に深いご理解とご支援を賜っておりますこと、改めて厚く御礼を申し上げます。

早いもので、医療センターも今年3月からは11年目に入ることになり、医療センター立ち上げに係わった私も、3月一杯でその任を終えることとなります。

残された期間に私のすべきことは、これまで積み重ねて来た高知医療センターとしてのソフトの部分、如何に問題なく後任の方々に引き継げるか、ということだと受け止めています。振り返ってみますと、県・市の基幹病院の合併という形でスタートした本院が、スタートに当たって最も注意したことは、業務の一本化を図

るに当たって、職員間だけの妥協の産物を作るのではなく、患者さんのために少しでもよりよい形を、という方向性・ベクトルを掲げて、それに沿う形で方向性を出していく、ということでした。

以降10年、この方針はなんとか維持できてきたと感じますが、当初の職員で残っておられるのは半数くらいでしょうか。その意味で今後に対しては、心もとなさも又、感じるころです。しかし世代交代は世の常、何とかうまく引き継ぎを果たし、高知医療センターには患者さん、そして医療連携面でご支援を戴いている先生方にこれまで通り、いやこれまで以上の医療サービスを提供する組織であり続けて欲しい、と思うばかりです。

つきましては、あと数ヶ月ではありますが、本年もこれまでと変わらないお力添えをいただきますよう、よろしく願い申し上げます。

新しい年が皆様方にとりまして幸多い年になりますよう祈念申し上げ、この場を借りて新年のご挨拶とさせていただきます。



副院長 吉川 清志

未年、明けましておめでとうございます。高知医療センターは10回目の新年を迎えました。いつも当院をご支援いただき心より感謝申し上げます。私が担当する部門の活動をご紹介します。

医療安全管理センターは、毎日発生するインシデント・医療事故を収集・分析し、その情報を院内で共有し対応策を検討しています。昨年10月から本年9月までの当院のインシデントは、療養上の世話（転倒・転落、自己管理薬取り違い、給食内容間違い）820件（36.3%）、ドレーン・チューブ関係（自己抜去、自然抜去、接続外れ、点滴漏れ）561件（24.9%）、薬剤（無投与、過剰・過少投与）473件（21.0%）などが主なものです。患者さんに影響なし1,096件（48.6%）、観察強化が必要691件（30.6%）、簡単な処置や検査が必要455件（20.2%）等でした。読者の先生方はこのデータを見てどのように感じられますか？多い、少ない、軽微、大変、面倒、---

医療者が患者さんや医療行為を確認することにより防止可能なインシデントと患者さんの自覚や協力が不可欠なものがありますが、軽微なインシデントも全て報告し重大なアクシデントの発生を防ぎ、当院の医療安全文化を育てています。To Err Is Human（間違いは人の常）と言われま

すが、インシデントを院内Webに掲示、医療安全管理研修会、DVDによる医療安全必須研修などの医療安全活動を継続しています。

感染症対策センターは、院内感染状況、耐性菌の検出状況、抗菌剤の使用状況、手指消毒剤の消費量などのデータや院内ラウンド・院内研修会を通して院内感染防止を図っています。また、定期的に地域医療機関と感染防止対策合同カンファレンスや医療機関相互訪問も行っています。

最もホットな話題は西アフリカで流行しているエボラ出血熱でしょう。昨年11月21日に高知県・保健所と発生時対応訓練を行いました。流行国からの入国者に対して検疫所が健康監視を実施しており、「過去3週間以内の流行国滞在で体熱感を訴える」患者さんは、最寄りの保健所に連絡し担当者により当院に搬送され、ルール上は当院を含め診療機関の直接受診はありません。当院は第一種感染症指定病院になっておりエボラ出血熱の患者さんを受け入れませんが、香川県と愛媛県に第一種感染症指定医療機関が無いことをご存知でしょうか？

医療安全・感染対策どちらも病院の基礎部門であり、できているのが当然と思われるかもしれませんが、奥が深く目標に向かってたゆまぬ努力を続けています。

本年も高知医療センターをよろしく願います。



副院長 山下 元司

新年明けましておめでとうございます。こころのサポートセンターが開設されて2年8ヶ月が経ちました。児童精神科は順調に業績を伸ばし、外来診療、

入院診療ともに多忙です。入院診療では昨年度初めて、入院患者数が10人になりました。原稿執筆時点でも6人が入院しており、同規模施設と較べても活動性の高さを誇っています。看護師も研修などを通して専門性を高めており楽しみな状況です。

外来新患診療については特に緊急を要しない患者さんの場合、診察までの待ち時間2ヶ月となっており、他施設と似たような数字です。精神科医師が少ないなかで児童精神科の医師はさらに少ないのでこのようになっており、1病院、1医師の

努力では克服できないようにみえます。

成人精神科は平成24年の開設まもなく2名の医師が退職し、入院受入れ停止と外来受診制限を行なって来ました。まだ確実とはなっていませんが来年度は新しい医師が確保できるかもしれません。こころのサポートセンター開設の第1の動機は身体疾患を持った精神障害者の治療でしたので、まずはこれから始めたいと思います。それと同時に二度と大量退職を繰り返さないためにも、ゆっくりと役割を果たしてゆきたいと考えています。この点についてなかなか理解が得られないかもしれませんが、長い目で見てご理解を賜りたいと思います。





副院長 森本 雅徳

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

当院は今年3月で開院してから丸10年となります。開院当初、医師には診療以外に事務作業など多くの業務が集中し医師は疲弊していました。平成21年6月、医師事務作業補助者(医療秘書)5名を導入し、入院証明書など書類作成と外来業務が特に多忙な医師の外来補助をスタートさせました。その後、医療秘書を徐々に増員し現在30名在籍しており、医師事務作業補助体制加算Ⅰの25:1を算定しています。今年度は、医療秘書をさらに増員し、医師事務作業補助体制加算Ⅰの15:1を目指しており、医師の負担軽減をさらに図る予定であります。

臨床研修においては、これまで当院は県外の大学からの研修医が比較的多く、高知大学からの研修医は少なかったのですが、平成27年度はこれが逆転し高知大学から多くの研修医を迎える予定となりました。県外の大学から研修医を迎えることも大切であります。高知大学からもさらに多くの研修医を迎えられるようにしていきたいと願っています。

臨床研修においては、これまで当院は県外の大学からの研修医が比較的多く、高知大学からの研修医は少なかったのですが、平成27年度はこれが逆転し高知大学から多くの研修医を迎える予定となりました。県外の大学から研修医を迎えることも大切であります。高知大学からもさらに多くの研修医を迎えられるようにしていきたいと願っています。

ここ数年、開院時に導入した医療機器が更新の時期を迎え、平成26年度もMRI、生理モニター、生化学分析装置、X線TV、超音波診断装置、麻酔器、人工呼吸器、治療計画CTやマンモグラフィ装置など大型機器の更新や新規導入がありました。今後も耐用年数を過ぎ故障がちとなっている機器がまだまだ多く、診療に影響することがないように計画的に更新していく予定であります。

今日、医療を取り巻く環境には大変厳しいものがあります。当センターの活動が成り立っているのは、地域の医療機関の方々の支えによるものであります。今年はいまだに築いていただいた連携をさらに強固なネットワークとして発展させたいと念じています。

この一年が皆様にとって明るい年となりますことを祈念申し上げます、新春のご挨拶とさせていただきます。今年もどうかよろしくお願いいたします。



副院長 島田 安博

新年明けましておめでとうございます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

昨年7月に赴任して以来、がん化学療法の体制整備を目指

して、外来ケアルーム看護師、薬剤師とともに活動しております。お陰様で、院内、院外からのご紹介も着実に増加しております。腫瘍内科が担当する患者さんはなかなか厳しい状況のかたが多いのですが、チームとして”明るく、元気に”対応して、患者さんのご負担を少しでも少なく出来るように努めております。

毎週火曜日にキャンサー・ボードを開催し、放射線診断医、内視鏡診断医、腫瘍外科医、放射線治療医、病理診断医、そして腫瘍内科医が集まり、治療方針の決定に難渋する患者さんを集中的に検討し治療方針を決定しています。専門家が知恵と経験を持ち寄り、最善の治療方針を決めて、最高の治療結果を目指してい

ます。がん治療の専門家が複数いる医療センターの強みと思います。

がん治療の進歩には、臨床試験や新薬の治験が必要です。これらの体制も十分に整備されており、本年からは新薬治験も受託する予定ですので、未承認薬の治療を受けることも可能になります。

すでに新聞などで報道されておりますように、高知医療センターは平成29年(2017)に「がんセンター」を開院します。今まで以上にがん治療に対して充実することが期待できます。腫瘍内科関係では外来化学療法室が現在の1.8倍の35ベッド予定されています。快適な環境の中で、化学療法を受けることができるよう現在鋭意準備を進めていますので、是非ともご期待下さい。

本年も、消化器がん患者さんの抗がん剤治療を積極的に受け入れ、最善の治療を提供するよう、スタッフ一同新たな気持ちで頑張ります。宜しくお願い申し上げます。

がんセンター長

森田 莊二郎



新年明けましておめでとうございます。旧年中は高知医療センターがんセンターに格別のご厚情を賜りまして、心から御礼申し上げます。

がんセンターは、従来のがん診断機能、放射線治療、外来がん化学療法を拡充するとともに、がん患者相談および緩和ケア機能を充実

させるため、本館西側に別棟で「新がんセンター（仮称）」を整備する方向で動き始めました。来年は実施設計、機器選定に入る予定になっております。具体的には、診断機能として PET-CT の導入（現在は高知大学に依頼）、高精度放射線治療に対応する放射線治療装置 2 台導入（現在は 1 台）、外来がん化学療法のベッド数を 35 床に増加、そして、「新がんセンター（仮称）」機能の目玉として、がん患者さんへのサービス向上のための、「がん相談支援センター」、「がん患者サロン」、および「緩和ケアセンター」をさらに充実し、当院のがん患者さんの会「池の会」の協力も得まして、す

べてのがん患者さん、ご家族の皆様方が、安心して治療を受けることができ、かつ病院内でも心休まる場を作り上げたいと思っております。

新機能充実のためには、すぐれた人材の確保が絶対条件になりますが、幸い昨年 7 月腫瘍内科に消化器がんの抗がん剤治療では日本の第一人者である島田安博先生をお招きすることができました。また新年度からは放射線治療専門医就任の目処も立っております。

2025 年には、団塊世代の方々が後期高齢者の仲間入りを果たし「高齢社会」を迎え、それに伴い 3 人に 2 人が「がん」に罹り、2 人に 1 人が「がん」で亡くなるという時代がくると予測されています。がん患者さんの高齢化に伴い、がんの早期発見、患者さんに優しい治療としての放射線治療、および新しい分子標的薬剤、ワクチン等も含めた抗がん剤治療への期待がますます高まっていくものと考えられます。

当院は、がん診療連携拠点病院として、また、高知県のがん治療の最後の砦としての使命を全うすることができるよう、「高知県のがん治療は高知県内で完結する」ことを目標に、充実した診療体制を整えたいと考えておりますので、県民の皆様方、医療機関の皆様方、関連諸団体の皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中央手術センター長

岡部 学



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

県民の皆様・地域の各医療機関の皆様方には、旧年中より深い御理解と多大な御支援を当中央手術センターに頂きました事を心から御礼申し上げます。

近年、手術室環境は目覚ましく進歩しております。

従来は主に手術室外で機能していた心臓血管カテーテル検査、内視鏡検査、CT

検査等の診断技術が、手術室内治療に積極的に取り入れられ、検査技術と手術技術を融合させて一人の患者を治療する、いわゆる「ハイブリッド手術」が手術治療の主流になるようになっております。病院組織形態の観点からしますと、中央検査室と中央手術室がボーダレスの時代に入ったと言えます。このハイブリッド手術治療により、従来治療困難であった多くの重症患者が治療可能となり、多くの大切な命が救われております。

当院におきましても、昨年 6 月に県内初の「ハイブリッド手術室」が完成し、最先端のハイブリッド手術環境を整える

ことができました。このハイブリッド手術室の完成はマスコミでも大きく取り上げられた所であります。

この手術室は、従来の手術室環境に心臓血管カテーテル検査室環境を備えた多機能最先端手術室で、「経カテーテル的大動脈弁人工弁置換術 (TAVR/TAVI)」をはじめ、従来不可能とされていた多くの低侵襲手術が可能となります。また、この「ハイブリッド手術室」では、手術室内において 3D-CT 検査・血管造影検査・X 線透視検査等の精密検査により手術結果をリアルタイムで直接確認しつつ手術操作が出来るため、全ての領域の手術においてその手術精度と成績が格段に向上いたします。

当中央手術センターは、「高知県民の命の砦」としての医療センターの任務を全うすべく、最先端手術治療環境整備に日々努力してまいります。

今年も、当中央手術センターは、地域医療機関の皆様方のお役に立てることを第一目標に、最先端の手術治療技術を御提供申し上げます。

地域医療機関の皆様方には、是非お気軽に中央手術センターをご利用いただくことをお願い申し上げます、新年のご挨拶にかえさせていただきます。

本年も変わらぬ御支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

循環器病センター長

山本 克人



新年明けましておめでとうございます。旧年中は当循環器病センターに対し深いご理解と暖かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。

昨年 4 月に、岡部循環器病センター長（現中央手術センター長）より、私がセンター長を引き継ぎ、初めての正月を迎えました。昨年は当センタースタッフや

周りの方々のご協力やご支援がいかに大切か、有り難さが身に染みてわかった年でした。

また、個人的には、「患者さんサービス改善委員会」の委員長を務めている立場もあり、11 月に接遇トレーナー研修に参加させていただき、その資格を得ることができました。その研修で、患者さんに対する「寄り添う気持ち」の大切さ等を改めて思い知ることができ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

さて、本年は当循環器病センターにとってますます発展する年になると考えております。昨年カテーテル治療室と手術室機能を併せ持つハイブリッド手術室が完成し、ますます高度でかつ低侵襲な新しい治療手技が可能となっています。昨年暮れには経カテーテル大動脈置換術 (TAVI) の保険診療実施認定施設となり、本年 1 月にも第一例目の治療がされる予定です。このために、循環器病センターの枠を超えた幅広い診療科や多職種スタッフから構成される「ハートチーム」を立ち上げ、チーム一丸となって取り組んでおります。この取り組みの精神は他の診療にもきっと活かされるはずであり、循環器病センタースタッフが、その枠にとらわれずまた職種も問わず、皆で同じ方向を目指して今後の診療に邁進していけるものと思っております。

高知県は心臓疾患での死亡率が高く、これはもちろん高血圧の管理などの予防医療にも力を注がなければならないところですが、生じてしまった急性疾患患者を一人でも多く助けることも重要です。本年も高知県民の皆様方の健康を守るため、より迅速な対応と高度な医療を提供できるように精一杯頑張りますので、地域医療機関の皆様方には、更にご支援のほどよろしくお願いいたします。



地域医療センター長

西岡 豊

明けましておめでとうございます。皆様すこやかに新春をお迎えのことと存じます。

日頃は、高知医療センターとの医療連携にご理解とご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。昨年も地域医療センターでは、前方・後方連携業務を推進し、地域の医療機関との連携がより迅速・

円滑に行われるように配慮するとともに、連携強化に向けて取り組んでまいりました。

より顔の見える開かれた地域医療センターを目指して、昨年度は、51 件の医療機関訪問を行い、たくさんの意見交換を行うことが出来ました。訪問時には、たくさんの方々にお世話になり、ありがとうございます。また、オープンシステム登録医に登録していただきました医療機関の先生方も 631 名に達しました。

おかげさまで、昨年も紹介率 (60.2%)、逆紹介率 (88.5%)

ともに高い水準を維持できました。

さらに、WEB 型電子カルテ閲覧システム「くじらネット」におきましても、利用医登録の先生方が 190 名を突破しました。今後ますます多くの先生方にご利用をお願いしていきたいと考えています。

高知医療センターは平成 19 年に地域医療支援病院として承認されてから今年で8年目を迎えました。昨年4月には「地域医療支援病院の承認要件の見直し」が行われ、紹介率・逆紹介率の改定、救急医療を提供する能力の指標、地域の医療従事者に対する研修の実施についての指標等、より一層の地域医療連携の充実を求められるものになりました。

一方、地域包括ケアシステムへの貢献を念頭に置いた地域包括ケア病棟が地域の医療機関に新設され、急性期からの患者の受け入れ、緊急時(急変時)の受け入れ、在宅・生活復帰支援等の機能発揮が期待されています。

このような地域医療連携の変化のなかで、今年も地域医療支援病院のなかの地域医療センターとして、さまざまな活動の中で、地域の医療機関から顔の見える開かれた地域医療センターを目指して精一杯の努力を重ねてまいりたいと考えております。旧年中と同様、今年もご指導ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。



救命救急センター長

喜多村 泰輔

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素より、当救命救急センター業務に際し格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年も様々な救急患者さんが搬送され、一名一名の患者さんに対して救命スタッフとともに一所

懸命に治療を行って参りました。患者さんの高齢化・多様化そして、医療の専門分野化は進んでいる事を肌で感じております。私ども救命救急センターも基幹病院としての急性期の高度医療の提供ができるよう体制を整え、緊急時における当院の窓口として、地域の先生方からの受け入れをスムーズかつ迅速に行えるようにスタッフ一同努力して参ります。

また、高知県ドクターヘリは運航開始以来 1742 件 (2014 年 12 月 15 日現在) の出動をいたしました。少しずつではありますが、県民のみな様の身近な存在となっているのではないかと自負いたしておりますし、なにより地域の先生方の緊急時のお役に立てるように、これからも精進して参りたいと思います。

また、昨年は 5 月に第 30 回日本救急医学会中国四国地方会を担当し運営させて頂き『南海トラフ巨大地震の発災時に行政や消防、警察、海上保安庁、自衛隊、そして我々医療関係者の垣根を越えた広域かつ多職種の連携』について検討いたしました。平時より関係各機関と連携しておく必要性を強く感じました。

本年も地域の救急医療の要となるように救命救急センターとして、また基幹災害拠点病院としてなお一層努力していく所存でございますので、本年もどうぞよろしく願い申し上げます。



総合周産期母子医療センター長

林 和俊

新年明けましておめでとうございます。吉川前センター長の後を受けて、昨年 4 月よりセンター長を拝命しております。新しい年を迎え、皆さまに年頭のご挨拶をさせていただきます。本年もどうかよろしく願い申し上げます。

全国的な少子化の傾向と同様、高知県の出生数は平成 10 年ごろには 7000 人ほどでしたが、年々減少し、ここ数年では 5300 人前後となっています。その間、分娩取扱い施設は半減し、現在は 15 施設となりましたが、今後、増加することはないと考えられています。一方では高齢妊娠や合併症妊娠、多胎妊娠などハイリスク妊娠、低出生体重児が増加しており、当院の役割は益々高まってきている現状です。

高知県全体では早産予防対策の取り組みを行うとともに、当

院に於いては県のご理解をいただき、産科病床および GCU (新生児治療回復室)の増床、分娩室1室の増築を行って参りました。幸い、早産防止対策は奏功しているようですが、分娩施設の急激な減少は 2 次、3 次病院に負担がかかり、役割分担、連携に基づいた周産期医療が混乱しつつあります。次の新たな対応策をスタートすべき時期に来ていると思っています。

今年の取り組みとしては、1. 増床した病床を有意義に活用するための診療体制、人員の補強 (医師、助産師、看護師すべて)、2. 産科セミオープンシステムの構築 (ローリスク妊婦の健診は無床診療所、分娩は当院)、3. 早産児など退院後も継続した医療を必要とする子供たちのフォローアップ体制の確立、を掲げたいと思います。これらの目標を達成するためには、さまざまな診療科の先生方、コメディカルの皆さん、事務職の方々、行政の方々のご協力が必要不可欠です。あらゆる対策を講じながら、総合周産期母子医療センターとしての役目を継続して果たしていきたいと考えていますので、どうかよろしく願い申し上げます。

月	日	曜	高知医療センター イベント情報 1月～			
1月	9	金	高知医療センター・高知県立大学合同研修会 (事前申込不要)			
			内容	判断能力を欠く患者に対する終末期医療 ーリビングウィルと近年の動向ー	場所	高知医療センター 2F くるしおホール
			講師	山口県立大学 社会福祉学部准教授 上白木 悦子 氏	時間	18:00～
	お問い合わせ: 高知医療センター 事務局 総務課 高島田 / 棚野 088(837)6760					
	10	土	地域がん診療連携拠点病院 公開講座・特別講演会 (参加費不要・事前申込不要)			
			内容	1 がんにつきあう～患者・家族の不満と医者の本音・愚痴～ 2 「お年寄りのがん治療を考える」～抗がん剤治療で出来ること、出来ないこと～	場所	高知共済会館 3F 大ホール
			講師	高知医療センター 1 消化器内科医長 根来 裕二 氏 2 副院長兼腫瘍内科科長 島田 安博 氏	時間	14:00～16:00
	お問い合わせ: 高知医療センター 経営企画課 088(837)3000 (内線: 3465)					
	18	日	高新・高知医療センターがんセミナー 2014 (事前申込不要)			
			研修名	「舌がんについて」	場所	高新文化教室 (RKC 高知放送南館 3 階 37 号室)
			講師	高知医療センター 耳鼻咽喉科医長 土井 彰 氏	時間	10:30～12:00
	お問い合わせ: 高新文化教室 088(825)4322					
24	土	第 1 回認定看護師・専門看護師の看護実践発表会 (事前申込不要・参加費無料 交流会 参加費 1,000 円)				
		内容	知ってほしい!ここまでする看護の力! 1. 講演: 家族支援専門看護師の活動 (仮) 2. 認定看護師・専門看護師の看護実践発表会 3. 交流会 (講演講師と参加者)	場所	高知医療センター 2F くるしおホール	
		講師	日本赤十字医療センター 家族看護専門看護師 関根 光枝 氏	時間	13:00～18:30	対象
お問い合わせ: 高知医療センター 看護局 4A 三浦 088(837)3000						
28	水	第 18 回高知医療センター 外科グループ手術症例検討会 (参加費無料)				
		研修名	症例発表 5-6 題 (予定)	場所	高知医療センター 2F くるしおホール	
		講師		時間	19:00～20:30	対象
お問い合わせ: 高知医療センター 地域連携室						
29	木	第 17 回高知医療センター 内科系症例報告会 (参加費無料・事前申込不要)				
		内容	症例報告 5-7 題 (予定)	場所	高知医療センター 2F くるしおホール	
		講師		時間	19:00～21:00	対象
お問い合わせ: 高知医療センター 地域連携室						
2月	5	木	医療安全について (参加費無料・事前申込不要)			
			研修名	医療安全について (仮)	場所	高知医療センター 2F くるしおホール
			講師	九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座 准教授 九州大学病院長補佐 鮎澤 純子 氏	時間	18:00～19:30
お問い合わせ: 高知医療センター 医療安全管理室 西村 088(837)3000						
7	土	高知医療再生機構 小児科専門医支援養成事業 講演会 (参加費無料・事前申込不要)				
		内容	学校検診を学ぶ 第2回 学校心臓検診 見逃してはいけない病気とその管理	場所	高知医療センター 2F くるしおホール	
		講師	鹿児島医療センター 小児科部長 吉永 正夫 氏	時間	15:00～16:00	対象
お問い合わせ: 高知医療センター 小児科 西内 律雄 088(837)3000						
8	日	平成 27 年医療セミナー				
		内容	医療小説新時代	場所	高知医療センター 2F くるしおホール	
		講師	書評家 大森 望 氏	時間	13:00～14:00	対象
お問い合わせ: 高知医療センター 医療局長 福井 康雄 088(837)3000						

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

皆様、改めまして明けましておめでとうございます。今月号はまず、巻頭に先月3日付け就任の古味企業長から「にじ」読者の皆様へのご挨拶、ついで病院長以下の幹部の年頭のご挨拶が続きます。

今月号の編集を行った12月は、年末恒例の印刷業界の混雑に加え、衆議院選挙が重なったことで心配はしましたが、仕事納めまでには何とか発送まで終えたいと、担当者一同、前のめりで頑張りました。幸い、作業は順調に進みまして、お手元への到着は14年中と思います。皆様、年末年始は年に一度の休養期間ではありますが、挨拶文に込められた各幹部のメッセージ、そしてその行間を、どうかお汲み取りいただければ幸いです。
(深田 順一)



平成27年1月1日発行
にじ 1月号 (第111号)
毎月発行

編集者: 深田 順一
発行者: 武田 明雄
印刷: 株式会社高陽堂印刷
発行元:

高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL: 088 (837) 3000 (代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp